



2005年度 年次報告書



JIYD

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム (JIYD)



VISION

すべての青少年が、以下にあげる「5つの財産」をもって成長していくことのできる社会を目指します。

無条件に受け入れる大人が一人でもいる
眠り、遊び、学び、「居る」ことのできる安全で安心できる場所
心身ともに健康な生活習慣
人のためになることをする機会
社会人として自立できる技能、知識、価値観を身につける機会

MISSION

より多くの青少年に、よりよく役立つプログラムの拡大・強化・普及を効率的に進めることが、JIYDの使命です。

理事長あいさつ

4期目にあたる2005年度は、これまでの蓄積を継承しつつ着実に事業を実施した1年となりました。これもひとえに皆様からのご支援とご理解のたまものであり、心より御礼を申し上げます。

松下電器産業株式会社様と協働している子どもNPO支援の助成事業は5年目を迎え、過去最多の83件の事業提案を頂戴しました。活動地域・事業内容ともに多様化している中で、今年も関係各位のご協力の下、優れた活動を実施している7団体へ支援することができました。

ライフスキル教育普及事業では、Lions Quest「思春期のライフスキル教育」プログラムの学校教育現場への導入を促進すべく、全国各地のライオンズクラブとの連携を深めながら、研修会、説明会、模擬授業等を開催し、数多くの方々にご参加いただきました。こうした活動が実を結び、Lions Questプログラムを全校規模で導入・実施して頂ける学校が着実に増えてきました。

ご存知のとおり、青少年のコミュニケーション能力、並びに自信・自尊心の低下が懸念されております。こうした状況のなかで、私共が普及を進めているLions Questプログラムに学校現場の関心が集まってきております。青少年が膨大な時間を過ごし、様々な文脈において非常に強い影響を受ける学校現場への支援活動を重視してまいる所存です。

多くの青少年が学びたいことを楽しく学び、学んでいることの意義を理解できる、そうした学び・成長の環境をより広範囲に整えていくために、さらなる努力をして参りたいと存じております。

今後とも私共の活動に更に一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

理事長 守隨 武雄

JIYD の活動

協働者・支援者・協力者

事業協働：

松下電器産業株式会社
ライオンズクラブ国際協会

助成：

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会
スマイルハートクラブ
三井住友海上火災保険株式会社
財団法人 森村豊明会
ライオンズクラブ国際財団
ルーセント・テクノロジー財団

寄付：

京セラ株式会社
テクノ青葉60
トヨタエルアンドエフ東京株式会社
松下電器産業株式会社

協力：

International Youth Foundation (IYF)
IYF Global Partner Network
Lions Quest International Network

(五十音順 敬称略)

事業協働

企画提案
助成申請

助成金
寄付金



会費

報告

会員：個人・法人

個人会員：123名

法人会員：10社

専修学校 音響技術専門学校

キッコーマン株式会社

株式会社スペースシャワーネットワーク

TDK 株式会社

株式会社東芝

豊田三共株式会社

他4社

(五十音順 敬称略)

私たち、NPO 法人 青少年育成支援フォーラム（JIYD）は、
青少年（5～25歳）の健やかな成長に役立つ活動やプログラムを広げていく、
そのために青少年の育成に係わる大人や組織を支援しています。



ライフスキル
教育普及事業

青少年活動
支援事業

各種事業

学校（教員）

NPO（スタッフ）

青少年活動指導者

青少年
（5～25歳）

私たちの活動をご支援ください。

会員の募集：

年会費： 個人・5,000円（1口）～ / 法人・200,000円（1口）～

1年単位の年会費制です（入会金無し）。組織や活動を維持・発展させるための経費等に充当されます。会員の方へは年次報告書を通じて活動のご報告をします。

寄付のお願い：

会員としてのご支援の他に、寄付も1,000円（1口）から受付けております。

お振込先（会費・寄付金）：

【郵便局】

・口座番号： 00110-2-546945

・口座名義： 特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム

【銀行】

・銀行名・支店名： 三菱東京 UFJ 銀行 品川駅前支店

・口座番号：（普）1341055

・口座名義： 会費口特定非営利活動法人青少年育成支援フォーラム理事長守隨武雄

ライフスキル教育普及事業へのご支援：

用途を「ライフスキル教育普及事業」に限定した寄付も受付けております。

こちらの場合は、以下からお選びいただけます。

・10,000円（1口）～： Lions Quest プログラム研修会参加費の補助費用

・50,000円（1口）～： Lions Quest プログラム体験会の実施費用

・400,000円（1口）～： Lions Quest プログラム研修会の開催費

お振込先（ライフスキル教育普及事業支援）：

【郵便局】

・口座番号： 00140-8-584349

・口座名義： LQ 事業支援寄付金

【銀行】

・銀行名・支店名： 三菱東京 UFJ 銀行 品川駅前支店

・口座番号：（普）1993371

・口座名義： LQ 事業特定非営利活動法人青少年育成支援フォーラム理事長守隨武雄

お問合せ先：

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム（JIYD） 担当：馬淵

Tel. 03-3440-3373 E-mail. info@jiyd.org

ライフスキル教育普及事業

ライフスキル教育をひとりでも多くの子どもたちに確実に届ける為に、
 全学年・全クラスでのプログラム実施を推進した 2005 年度事業。
 一校・全教員対象のワークショップ開催、教育現場を支援するフォローアップや
 教材開発、ライオンズクラブとの連携。
 こうした活動が実を結び、ライフスキル教育が着実に広がりはじめています。

JIYD では 1999 年より、Lions Quest 「思春期のライフスキル教育」プログラムの普及
 に尽力して参りました。学校教員をはじめとした教育関係者を対象に研修会（ワークショッ
 プ）を行うと共に、教育現場での実施をサポートすることにより、Lions Quest プログラ
 ムは全国的な広がりを見せています。

2005 年度は、これまでに蒔いてきた種を全校規模でのプログラム実施という形に結実
 させる一年でした。参加者を公募する一般向けのワークショップの他、プログラムの全
 校規模での実施を決定した学校（モデル校）の全教員を対象とする校内ワークショップ
 を行い、ライフスキル教育が子どもに確実に伝えられる形での普及活動を重視しました。
 その結果、2005 年末にはこうしたモデル校が 6 校となりました。

より多くの教育関係者にプログラムを届けるために

プログラムを学ぶワークショップの開催

プログラムの理解を深め、実際に授業を行うことができるようになるために、学校教
 員を主な対象とした 2 日間のワークショップを関東・関西地域を中心に 17 回開催し、
 525 人に参加していただきました。この内の 5 回は、モデル校を対象とする校内ワークショッ
 プです。なお、過去 6 年間の累計では、ワークショップ開催回数は 37 回、参加者数は
 939 人になりました（2005 年 12 月末現在）。

教育現場でのより良い実施を目指して

フォローアップ・ワークショップの開催

ワークショップ参加者を対象に、プログラムの理解をさらに深めるためのフォローアッ
 プ・ワークショップを東京で 2 回開催し、39 人に参加していただきました。

補助教材「指導案」の完成

昨年より改訂作業を続けてきた補助教材「指導案」が完成しました。この指導
 案には、プログラムを構成する全 79 授業のうち、実施頻度の高い 38 授業分がよ
 り実施しやすい形にまとめられています。2005 年 5 月より、ワークショップ参加
 者に配布を始めました。また、プログラムの目的や概念をまとめた「プログラム
 概要書」の改訂に着手しました。



道徳は命が大切とか、友人を大切にとか抽象的なことを扱う時間。
でもライフスキルは、どうしたらそれを大切にできるか、具体的な方法を学べる時間。
落ちこんだときにプラス思考で考える方法や自分の気持ちをちゃんと伝える方法。
・・・今になってみればライフスキルをやっていてよかった。
Lions Quest プログラムを3年間中学校で学んだ生徒の声

対人関係など心の教育が受けられるのは、親も心強いです。
保護者の声

プログラムを実施してから、生徒同士、
生徒と教員、そして教員同士の信頼関係が増し、
職員室の雰囲気も変わってきました。
これは職員が“変わる”プログラムです。
中学校校長の声



「賞賛の気持を表現する」授業風景

プログラムの効果を計る調査の前半を終了

プログラムの効果を測定する調査（生徒へのアンケート調査、教員アンケート・面談、授業観察）の前半を終えました。この調査では、プログラムの効果を測定するための評価モデルを開発し、モデル校である東京都狛江市立狛江第三中学校および三重県津市立豊里中学校の協力を得て、調査を進めています。

今後の普及の種まきとして

ライオンズクラブへの働きかけ

プログラム普及活動のパートナーであるライオンズクラブに協力を呼びかけるため、説明会・体験会を19回開催し、1,501人に参加していただきました。また、9都道府県においてプログラム普及活動を後押しするべく、事業提案を行いました。

教育関係者を対象とした説明会・体験会の開催

プログラムに関心を持つ学校や教育委員会等を対象とした説明会・体験会を22回開催し、791人に参加していただきました。

プログラムの実施を検討している学校での出張授業

プログラムの実施を検討している学校5校に出向き、教員に実際の授業の様子をご覧いただく出張授業（参加生徒数551人）を行いました。

その他

ホームページを大幅に更新し、Lions Quest ニュースレターを2回発行しました。またプログラムを紹介するパンフレットを改訂し、ワークショップ参加者、プログラム実施校教員等にプログラムに関する情報を提供するブログの作成に着手しました。

青少年活動支援事業

5年目を迎えた助成事業、Panasonic & JIYD 子どもサポーターズ マッチング基金は、過去最高の助成申請を受けました。

申請団体の活動地域・事業内容ともに多様化する中で、7団体に対し総額約700万円を助成しました。

Panasonic & JIYD 子どもサポーターズ マッチング基金

2001年に始まった当基金の助成事業は、ここに5年間の事業が終了しました。この間に、青少年に係わるNPOを対象として、全国の31事業に総額3270万5千円の資金提供を行いました。多文化共生（在住外国人）、医療、人権、環境、教育・不登校、芸術・文化、国際協力など、多種多様な分野の多くの団体の方々とお会いすることができました。

日本に暮らす子どもたちの問題は、多種多様で過酷な状況を背景に持つものも珍しくありません。子ども一人ひとりが笑顔で、より良い人生を歩むことができるように、具体的な変化を生み出すための活動を改善・発展していく支援ができました。

市民と企業が、共に課題へ取組む基金

この基金は、子どもを取りまく社会的課題の解決にむけて活動しているNPOが、より充実した活動を展開できるようにするためのものです。団体の弱い部分を補強して「より確かな基盤」を整える取組み 基盤強化 を支援すると同時に、市民一人ひとりがNPO活動を応援する社会 寄付文化の浸透 を目指しています。資金は、松下電器が拠出する基礎資金（最大年600万円）に加えて、市民からの寄付、その市民寄付に対する松下電器からの同額のマッチング資金の合計です。

子どもに必要とされている活動を"パワーアップ"

2005年7月に助成希望団体を公募し、松下電器とJIYD及びNPO実務者、専門家からなる選考委員による2回の審査会と訪問調査を経て、11月に7つの助成対象団体を決定しました（次頁参照）。助成金総額は708万3千円です。団体の基盤強化を応援すべく、給与や家賃、スタッフの研修費など、他の助成プログラムでは認められにくい用途にも助成金を使用することができるようにしています。

2005年度助成対象団体名、助成額、及び事業名

【団体名】: NPO 法人 ちゅらネット (沖縄県) 【助成額】: 1,080,000 円

【事業名】: スタッフの研修を通じた能力向上を図る人材養成事業

【団体名】: NPO 法人 ファミリーハウス (東京都) 【助成額】: 1,095,000 円

【事業名】: 経理及び会員管理業務の効率化をはかる基盤強化事業

【団体名】: NPO 法人 キララ (兵庫県) 【助成額】: 1,240,000 円

【事業名】: 子どものための性に関する情報サイト運営のための人材養成事業

【団体名】: NPO 法人 発達カウンセリングポップシップ (東京都) 【助成額】: 373,000 円

【事業名】: 経理処理および情報の共有化を中心とした運営改善事業

【団体名】: NPO 法人 演劇百貨店 (東京都) 【助成額】: 1,270,000 円

【事業名】: 子どもたちとの参加型舞台芸術活動の実践と劇あそび集作成事業

【団体名】: NPO 法人 トッカビ子ども会 (大阪府) 【助成額】: 1,140,000 円

【事業名】: 在日ベトナム人の子ども達を対象にしたルーツ語を学ぶための教材作成事業

【団体名】: NPO 法人 カリヨン子どもセンター (東京都) 【助成額】: 885,000 円

【事業名】: 職員・スタッフの子どもへの対応力の向上、並びにスタッフの「支援策」の検討事業

過去5年間の助成対象団体名と事業の内容・成果はホームページ上 (<http://www.jiyd.org/grant/grant.html>) に掲載しています。

その他の事業

助成事業に加え、これまでに実施してきた事業の報告書を発行しました。

居場所交流全国フォーラム2004

子どもたちの「居場所」をキーワードに、実践者同士の経験共有の場として設けてきた「居場所交流全国フォーラム」。本報告書は2004年12月に開催したフォーラムの記録です。テーマは、「スタッフをどう育てていますか? ~ふりかえることの意味と活かし方~」です。



「子どもの参加/参画」実践の普及促進のための調査

子どもに係る団体が、おとなの意向を中心に展開するのではなく、子どもと対話をし、共に活動を創っていく「子どもの参加/参画」という考え方。こうした考え方に基づき活動しているNPOや公立の小学校、児童館等、事例10件を調査した報告書です。



もっともっと冒険記

子どもに係る団体が地元地域から「もっともっと」支えられるように、広報・資金調達の取組みを支援した事業の報告書です。



第4期事業年度 収支計算書 2005年1月1日～2005年12月31日

収入の部

(単位:円)

大科目	中科目	予算額	決算額	差異
会費収入	個人	1,000,000	535,000	465,000
	法人	1,400,000	2,000,000	-600,000
	会費収入小計	2,400,000	2,535,000	-135,000
事業収入	啓発資料販売事業	10,000	1,600	8,400
	ライフスキル事業:ワークショップ参加費	2,440,000	3,556,565	-1,116,565
	居場所交流フォーラム:参加費	300,000	0	300,000
	その他	820,000	2,017,056	-1,197,056
	事業収入小計	3,570,000	5,575,221	-2,005,221
助成金収入	ルーセント・テクノロジー財団	16,060,000	16,155,000	-95,000
	ライオンズクラブ国際財団	2,960,000	6,697,510	-3,737,510
	ライオンズクラブ330C地区	600,000	464,139	135,861
	その他財団	1,000,000	1,000,000	0
	助成金収入小計	20,620,000	24,316,649	-3,696,649
寄付金収入	使途指定寄付金	8,500,000	10,304,978	-1,804,978
	内)松下電器産業	7,500,000	9,283,368	-1,783,368
	一般寄付金	100,000	607,000	-507,000
	寄付金収入小計	8,600,000	10,911,978	-2,311,978
その他収入	受取利息	500	206	294
	雑収入	50,000	8,408	41,592
	その他収入小計	50,500	8,614	41,886
当期収入合計(A)		35,240,500	43,347,462	-8,106,962
前期繰越収支差額		27,692,032	27,692,032	0
収入合計(B)		62,932,532	71,039,494	-8,106,962

支出の部

(単位:円)

大科目	中科目	予算額	決算額	差異
事業費	青少年健全育成支援事業	12,770,000	11,395,875	1,374,125
	内)子どもサポーターズ マッチング基金	7,800,000	8,816,572	-1,016,572
	ライフスキル教育普及事業	21,240,000	21,138,185	101,815
	募金事業	2,770,515	1,991,583	778,932
	広報事業	1,250,000	1,196,171	53,829
	事業費小計	38,030,515	35,721,814	2,308,701
管理費	人件費	3,150,000	3,202,089	-52,089
	通信費	300,000	413,738	-113,738
	事務用消耗品	450,000	275,943	174,057
	交通費	350,000	452,700	-102,700
	家賃・リース料	1,000,000	837,659	162,341
	外注費	400,000	344,560	55,440
	その他	350,000	503,236	-153,236
	内)引越費用	0	172,748	-172,748
管理費小計	6,000,000	6,029,925	-29,925	
固定資産取得	備品購入支出小計	0	198,100	-198,100
当期支出合計(C)		44,030,515	41,949,839	2,080,676
当期収支差額(A-C)		-8,790,015	1,397,623	-10,187,638
時期繰越収支差額(B-C)		18,902,017	29,089,655	-10,187,638

注)「管理費」は、総務・経理等の管理部門の経費です。

各事業専任者の人件費及びその他の直接経費は「事業費」に含まれています。

貸借対照表 2005年12月31日現在

●資産の部

□ (単位:円)

大科目□	中科目□	金額□
流動資産□	現金・預金□	28,282,997
	前払費用□	118,700
	未収入金□	4,394,947
	流動資産小計□	32,796,644
固定資産□	什器備品□	259,944
	電話加入権□	226,408
	敷金□	300,000
	固定資産小計□	786,352
資産合計□		33,582,996

●負債の部

■ (単位:円)

大科目□	中科目□	金額
流動負債□	未払金□	1,559,135
	未払費用□	130,000
	前受金□	1,849,494
	預り金□	168,360
	流動負債小計□	3,706,989
負債合計□		3,706,989

注) 複数年度に跨るプロジェクトの助成金収入があるため、流動資産、特に現金・預金の比率が高くなっています。

●正味財産の部

□ (単位:円)

大科目□	中科目□	金額
正味財産□		29,876,007
□内)当期増加額□		1,439,834
負債および正味財産額□		33,582,996

監査報告書

監 査 報 告 書

2006年2月6日

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
理事長 守隨 武雄 殿

公認会計士 小坂 義人 

私は、特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの2005年1月1日から2005年12月31日までの事業年度の下記の計算書類について監査を行った。

- 収支計算書、正味財産増減計算書及び貸借対照表
- 財産目録

この監査に当たって、私は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続を実施した。

監査の結果、法人の採用する会計処理の原則及び手続は、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準及び定款(寄付行為)に準拠し、かつ、前事業年度と同一の基準に従って継続して適用されており、また、計算書類の表示方法は、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているものと認められた。

よって、私は上記の計算書類が特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの2005年1月1日から2005年12月31日までの事業年度の収支及び正味財産増減の状況並びに同事業年度末日現在の財産の状態を適正に表示しているものと認める。

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムと私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

2006 年度事業計画

いま、青少年と大人の双方から求められているライフスキル教育。教育現場でも今後益々ニーズが高まることが予想されます。2006 年度、JIYD はライフスキル教育の普及に注力して行きます。

生徒からも教員からも求められているライフスキル

文部科学省が 2005 年 6 月に発表した「義務教育に関する意識調査」中間報告によれば、小・中学生が学校で自ら身に付ける必要があると考えている能力として、善悪を判断する力や良好な人間関係を築く力などを挙げています。また、同報告では、教育現場に立つ学校教員からも、生徒に身に付けて欲しい能力として、同じものが挙げられています。こうした能力は全て、日々直面する問題を建設的に解決していくのに必要な能力、ライフスキルに深く関連しています。

学校現場では、どうすれば生徒がこうしたライフスキルを効果的に身に付けることができるか、模索が続いています。

中学生が考える

「学校生活で身に付ける必要がある力」

1. よいことと悪いことを区別する力
2. まわりの人と仲良く付き合う力
3. 自分の考えを言葉で伝える力

「義務教育に関する意識調査」中間報告
文部科学省 2005 年 6 月

ライフスキルを体系的・包括的に学べる Lions Quest プログラム



1999 年より JIYD が普及を進めている Lions Quest 「思春期のライフスキル教育」プログラムは、こうしたライフスキルを学校教育の中で体系的・包括的に学べるよう組み立てられています。この Lions Quest プログラムを学校全体で実施しているモデル校からは、「生徒に自分の考えを表現する力が付いた」、「生徒同士、生徒と教員間の信頼関係が築かれた」といった成果のほか、「教員自身がライフスキルを意識することにより教員同士の対話が生まれ、学校全体に変化が起きている」との報告がされています。

プログラムの効果的な実施と更なる普及のために

こうした成果を生み出す為には、ライフスキル教育を、保護者を巻き込んで学校全体で継続的に取り組むことが必要不可欠であり、JIYD では学校に対して全校での取り組みを働きかけてきました。その結果、新たにモデル校となる学校、高い関心を寄せ導入を検討する学校も増えています。

JIYD では、2006 年度におけるライフスキル教育普及活動の基本方針として、2005 年度と同様にモデル校を増やす活動を実施します。また、新たにワークショップ講師を養成し、より多くの地域から寄せられるようになったワークショップ開催の要望に応えます。さらに、学校現場での効果的なプログラム実施をサポートするため、教材の充実、相談対応なども積極的に行います。

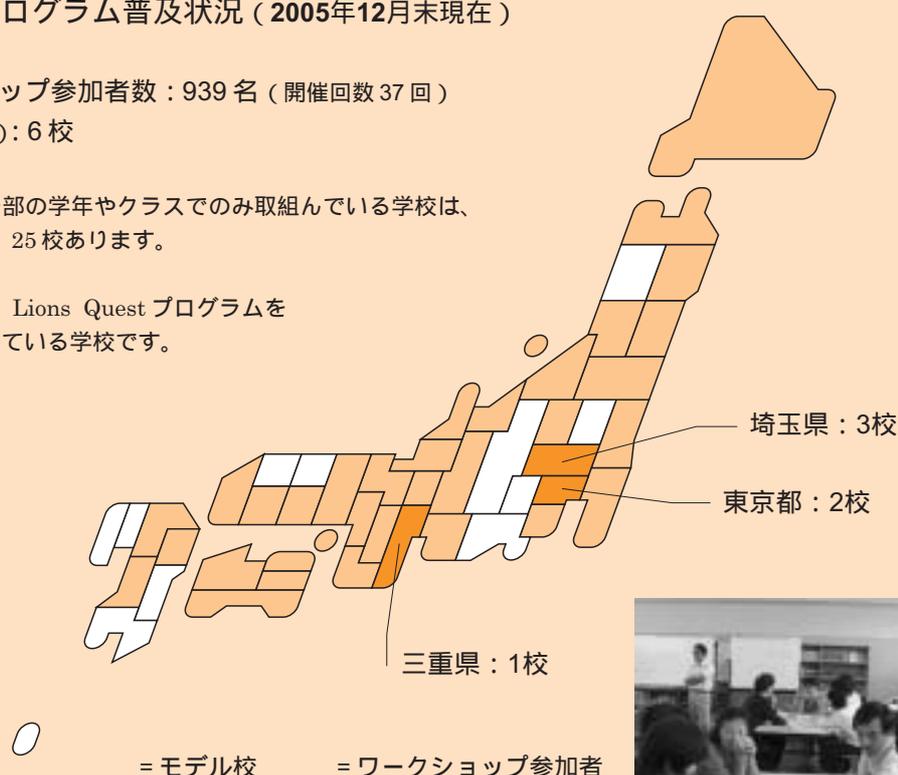
Lions Quest プログラム普及状況 (2005年12月末現在)

累計ワークショップ参加者数：939名 (開催回数 37回)

モデル校数 (): 6校

「モデル校」の他、一部の学年やクラスでのみ取組んでいる学校は、2005年12月末現在、25校あります。

「モデル」校とは、Lions Quest プログラムを全校規模で実施している学校です。



ワークショップ風景(2005年7月)

2006年度の活動

1. より多くの教育関係者がプログラムを知り学ぶ機会を

ワークショップの実施

プログラムの実施を予定、検討する教育関係者を対象に2日間のワークショップを開催します。参加者を公募するワークショップに加え、全校でのプログラム実施を決定した学校での全教員対象の校内ワークショップ開催にも力を入れます。関東・北海道・北陸等で20回開催する予定です。

説明会・体験会の実施

プログラムに関心をもつ学校や教育委員会等を対象として、説明会・体験会を行います。

2. 教育現場でのプログラム実施をサポートする

プログラム教材の充実

プログラム教材を教育現場でより使いやすくします。

- ・ 教室で使う掲示物のCD-ROM化
- ・ プログラムやライフスキルに対する保護者の理解を深めるため、「保護者用副読本」や保護者会運用方法をまとめた手引書「保護者会運営手引書」の充実
- ・ モデル校の授業風景をまとめたビデオ「授業実例集」(29授業)の制作

フォローアップ・ワークショップ

実践者がそれぞれの現場でより効果的にプログラムを実施できるよう、実践者同士の情報の共有・意見交換の場を設けます。2回開催する予定です。

学校でのプログラム実施支援

授業内容や年間の実施計画等についての相談に対応していきます。またモデル校教員のワークショップ参加費を1校、年6名まで支援します。

プログラム評価

プログラムの効果を測定し、よりよい実践につなげるため、昨年に引き続き、三重県津市立豊里中学校および東京都狛江市立狛江第三中学校において、生徒アンケート調査を実施します。

3. 普及体制を強化する

ワークショップ講師の追加養成

ライオンズクラブ国際財団(LCIF)よりシニアトレーナーを招き、ワークショップを実施できる認定講師を2名追加で養成します。

ライオンズクラブとJIYD

Lions Quest「思春期のライフスキル教育」プログラムの著作権はアメリカに本部があるライオンズクラブ国際財団(LCIF)が所有しています。JIYDはLCIFより、日本国内におけるプログラム実施団体として認定され、全国各地のライオンズクラブと連携して普及活動を行っています。ライオンズクラブは、世界197の国及び領域に拠点を持つ奉仕団体で、日本においては全国で約13万人が会員として活動しています。

普及パートナーとの連携強化

全国で継続的な普及活動を行うためには、各地のライオンズクラブとのパートナーシップが不可欠です。ライオンズ・メンバーを対象としたセミナーの実施、各地区の青少年育成事業の担当者等への働きかけなどを通じて、引き続き連携を強化します。

ライフスキル教育の普及事業に注力する 2006 年度

JIYDでは、ライフスキル教育普及事業に加え、助成事業を含む子どもNPOを支援する青少年活動支援事業を実施してまいりました。同事業を通じて、日本全国にある多種多様な活動をご支援し、その発展の為に尽力してまいりました。

しかし、JIYDが普及を進めるLions Questプログラムが学校教育現場の関心を集め、今後、益々普及していく兆しが見え始めています。こうした機運の高まりの中で、普及活動や教育現場のニーズへの対応をより充実していく為に、2006年度は、ライフスキル教育普及事業に専念することにしました。

従いまして、これまでに実施してまいりました青少年活動支援事業は休止します。なお、松下電器産業株式会社様との協働により実施してきました助成事業、Panasonic & JIYD 子どもサポーターズ マッチング基金は、名称を変更し、新しい実施体制で今後も継続されます。新たな展開が期待される同基金の詳細については、松下電器様のホームページ(<http://panasonic.co.jp/ccd/psmf.htm>)をご覧ください。

理事会

理事長 守隨 武雄 松下電器産業株式会社客員

副理事長 中雄 政幸 事務局長兼務

理事 栗田 収司 日本ビクター株式会社客員
 野村 彰男 早稲田大学大学院 公共経営研究科 客員教授
 藤本 厚子 元幼稚園教諭
 道 あゆみ 弁護士

監事 満島 章 前財団法人こども未来財団監事

(五十音順)

事務局

中雄 政幸 (事務局長)

佐渡 涼子 / 鈴木 祐司 / 田川 薫 / 田中 健介 / 中雄 実恵子 / 馬淵 英晃

綾田 雄公 (i) / 日塔 涉 (i) / 藤 香織 (i) / 福島 智美 (i)

(i) = インターン

発行者 中雄 政幸

発行所 特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム

発行日 2006年4月28日

印刷 株式会社東京印刷サービス



特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム（JIYD）

東京都港区高輪 4-10-63-302 〒 108-0074
TEL. 03-3440-3373 / 03-3440-4486（ライフスキル専用）
FAX. 03-3440-4447
E-Mail. info@jiyd.org / info@lqjp.org（ライフスキル専用）

www.jiyd.org
www.lqjp.org（ライフスキル専用）

